

## ⑬歴史を紡ぎ、未来へ繋ぐ。地域を支える2つの架け橋 ～富士川かりがね橋の開通と富士川橋開通100周年～

受賞機関 静岡県 富士土木事務所

**キーワード** 地域との協働、橋名揮毫<sup>きごう</sup>、渋滞緩和、100年橋梁、産官学連携、広報・PR

### 全建賞審査委員会の評価ポイント

奇しくも同じ年に節目を迎えた新旧二つの橋梁について、新橋では地域の未来を担う高校生に橋名板の揮毫を依頼し、地域住民と一体となった事業PRを推進するとともに、開通100周年を迎えた旧橋では大学や博物館等との産官学連携により、インフラメンテナンスへの理解促進と担い手確保につなげた点が評価された。

### 1. はじめに

令和6年3月に富士川かりがね橋が開通し、旧橋周辺の渋滞が大幅に改善した。また、開通から5か月後の同年8月、静岡県富士土木事務所が管理する「富士川橋」が、静岡県管理橋梁（鋼橋、長大橋）で初めて開通100周年を迎えた。道路施設の老朽化に伴い、インフラを「つくる」ことだけでなく、「まもる」、「いかす」といった維持管理に関するPRの重要性も高まっている。

そこで、富士川かりがね橋の新設と100周年を迎えた富士川橋のメンテナンスを併せてPRすることで、インフラへの理解を深め、ひいては担い手確保につながるPR事業を展開した。

### 2. 事業の概要

新橋である富士川かりがね橋について、地域の方々が親しめるように、橋名板の揮毫を地元高校生との協働により進める「橋名揮毫プロジェクト」を実施した。

また、旧橋である富士川橋の開通100周年記念事業として、パネル展を巡回開催するとともに、「記念リーフレット」や「記念ロゴマーク」を制作した。さらに、大学教授や博物館の学芸員も参加した、産官学連携による地域住民向けイベント「かりがねウォーク2024」を開催した。



橋名揮毫

### 3. 事業の成果

様々な主体と連携し、2つの橋梁に関する多様な事業PRを行うことで、効率的・効果的な情報発信につながった。また、本事業をきっかけに富士川橋近隣の小学校から依頼を受け、総合学習の一環として、富士川渡河の歴史や富士川橋について学ぶ出前講座を開催した。模型教材を用いて橋梁の構造を学ぶ体験ブースは大盛況であり、富士川橋やインフラづくりに愛着を持つ地域風土の醸成、担い手の確保につながる大きな一歩となった。



富士川第一小学校出前講座

### 4. おわりに

橋名板の揮毫にご協力いただいた「県立富士高等学校書道部」の皆さまほか、本事業にご協力いただいた多くの関係者の皆さまに厚く御礼申し上げますとともに、今後も建設産業への理解促進及び担い手の確保に向けて、幅広くPR活動を行っていく。



富士川橋と100周年記念ロゴマーク